

2010年度第3回常任理事会議事録

日時：2010年8月6日(金)午後1時00分～5時00分

場所：東京富士大学本館1階第2会議室

出席者：森下高治理事長，藤田主一副理事長
井上孝代，浮谷秀一，川本利恵子，田中真介，田之内厚三，谷口泰富，内藤哲雄，藤森立男，向井希宏（以上11名）

欠席者：大坊郁夫，玉井寛，蓮花一己

事務局：浮谷秀一（事務局長），佐藤恵美（幹事）

I 報告事項

1. 理事長より

- 荻野先生を名誉会員に推戴したが，理事であることを理由に辞退された。
- 第79大会開催校として北星学園大学の濱保久先生打診し，前向きな返答をいただいている。

2. 各種委員会報告

(1) 機関誌編集委員会（川本委員長）

- 本日10時半より第2回会議を行った。これまでの審査状況は，どの部門も順調に査読が行われている。
- 短報に連続投稿している会員について，連続して掲載する場合のタイトルなどを考慮しながら進めている。
- 機関誌第36巻第1号は原著2本，短報2本，昨年の駒澤大学で開催された公開シンポジウム1本を掲載する予定であるが，発行時期は未定である。
- 2010年8月現在，機関誌への投稿は11本（原著4本，短報5本，研究資料2本）で，審査中である。

(2) 企画委員会（田之内委員長）

- 今年度の公開シンポジウムの日程は2010年11月13日(土)13:00～15:30，場所は東京富士大学（メディアホール）で決定した。タイトルは「なぜ若者は恋をしないのか—応用心理学から見た恋愛—」となった。
- アナウンスはホームページ，ポスターは9月半ばにできる予定である。ハガキでのアナウンスはしない。総会でチラシを配る予定である。
- 当日の12時から常任理事会を行う予定である。

(3) 広報委員会（藤森委員長）

- 新広報誌『応用心理学のクロスロード』の創刊号をホームページにUPする作業を行っている。
- 広告掲載企業としてナカニシヤ出版など2社が内定している。今後も広告掲載をお願いできる企業を探す。塾や予備校に『クロスロード』を置いていただき，高校生などにも見てもらうことを検討していく。
- 『クロスロード』2号は2010年12月に発行する予定である。

(4) 「応用心理士」認定審査委員会

（代理：浮谷委員）

- 2010年申請者は2名で，審査も終了し，現在認定手続きを進めている。

(5) 国際交流委員会（内藤委員長）

- 2010年国際応用心理学会（メルボルン）の大会企画シンポジウムに参加し，盛況であった。
- 今後，英文特集号の発行を来年度中に目指す予定である。
- 英文特集号の申込み方法は未定であるが，できれば早めに投稿申込みの日程を決め，9月の総会とホームページでアナウンスする必要があることを確認した。また，論文のページ数や投稿者規定（ファーストは会員であること）など詳細を早めに決めることが要請された。

(6) 若手研究者支援委員会（代理：浮谷事務局長）

- 次回第77回大会の若手支援ブースの日程や時間配置などの準備を進めている。

(7) 学会賞選考委員会（藤田委員長）

- 審議事項で審議する。

3. 2010年第77回大会について

（田中大会委員長）

- (1) 第77回大会の内容は，シンポジウム3件，自主企画8件，ポスター104件になった。

4. 日本心理学諸学会連合について

（谷口担当常任理事）

- 6月20日に理事会があった（参考資料）。
- 国資格問題に関しては，審議事項とする。
- 国資格問題に関して，心理学諸学会連合に対して医療関係団体から一資格を作ることが提案され，これにはカリキュラムの一本化が必要であ

り作成する必要があることが確認された。検討の結果、いくつかのカリキュラム案が提案された。この提案について、各学会に意見・質問などを求めることになり、回答日を定めて依頼することになった。本学会も適切に対応することになった。

- 本学会としては、臨床に特化している学会ではないので、「大学院カリキュラム案 B (ver. 2)」よりも、折衷案である「大学院カリキュラム案 C (ver. 2)」に賛同することが了解された。ただし、国資格とすることを目的とする場合、B案でも柔軟に対応していく必要もあるのではないかという意見も出された。
- 心理学検定については藤田副理事長より報告があった。
- 第3回心理学検定は8月22日に実施される予定である。受験者数は2,260名であり、受験者数は増加傾向にある(受験者数は第1回約1,200名、第2回約1,700名)。
- 視覚障害者の点字の問題作成などを考えていく必要があることが報告された。

II 審議事項

1. 2009年度決算書に関する件(浮谷事務局長)

- 2009年度決算書が報告された。
- 名簿作成年度のために名簿作成積立金から50万を取り崩す予算を組んだが、名簿作成見積額が約117万となったので、取崩し額を100万円することが了承された。今後会員数を増やすなどして収入を増やすことを検討していくことになった。
- 2009年度決算書では、総収入に対して総支出が上回っている。今後支出を削減するか、会員数を増やすなどの対応していくことの検討が必要であることが確認された。

2. 学会賞選考に関する件(藤田委員長)

- 学会賞を選考するため、各理事などからの推薦書に基づいて1次審議を行った。
- 論文部門の審査は、『応用心理学研究』(第33巻2号～第35巻第2号)を対象に推薦してもらった。その結果、最も推薦数が多かった論文、櫻井美由紀・岩崎祥一「視覚・聴覚の二重課題における注意の偏りについての研究」(第33巻第2号)を決定した。

- 実践活動部門は、「該当なし」であった。
- 短報についての独立した賞を作ってはどうかとの提案があった。

3. 学会活性化に関する件(藤田副理事長)

- 大会発表賞実施委員会(仮称)は「大会発表賞(理事長賞)」の新設を提案した。
- 審査は大会に参加した会員が投票する、推薦理由を書くなどいくつかの点を考慮することで、「大会発表賞」の新設が承認された。今年度の第77回大会より実施することが決定された。

4. 公開シンポジウムに関する件

(代理:浮谷事務局長)

- 今年度の公開シンポジウムは、2010年11月13日(土)13:00～15:30、東京富士大学で開催する。タイトルは「なぜ若者は恋をしないのか—応用心理学から見た恋愛—」

5. 名誉会員推戴に関する件(森下理事長)

- 荻野先生を名誉会員に推戴したが、荻野先生はご辞退された。

6. 年会費滞納者の取り扱いに関する件

- 2003年から年会費を滞納している滞納者リストが示された。
- 2006年度以前年会費未納入については自動退会にすることが決まった。
- 今後は過去3年間の会費未納入者は、自動退会にすることが承認された。

7. 新入会員審査および会員異動に関する件

- 下記の新入会希望者30名(学生会員3名含む)について審査し、全員が承認された。

(正会員)

中妻拓也、倉岡理保、峰岸幸子、松原健太、堀井康平、芝田郁子、栖村はるみ、山岡重行、中村知靖、義田俊之、田中共子、楠瀬友季、兵藤好美、坂井真菜未、中田紗紀子、安友かおり、小森万由美、杉本真理、細川京子、諏訪部和子、太田顕子、横見守男、堀直人、金岡麻希、藤浦芳江、堀恭子、田井和美

(学生会員)

篠原成美、佐藤典子、後藤英梨

* 今後の日程について

- 2010年9月10日(金)15:00～17:00の大会前日に理事会を行う。常任理事会は9月12日(日)12:15～13:15に行う予定である。

2010年度 理事会議事録

日 時: 2010年9月10日(金)午後15時00分～
17時00分

場 所: 京都大学 C会館4階機構セミナー室(総合館北棟)

理 事: 森下高治理事長, 藤田圭一副理事長
浮谷秀一, 加藤博己, 川本利恵子, 木村友昭,
玉井 寛, 田中真介, 田中祐子, 谷口泰富,
向井希宏, 松田浩平, 内藤哲雄, 藤森立男,
大坊郁夫, 深澤伸幸, 蜂屋 真, 森脇保彦,
荻野七重, 細江達郎(以上20名)

陪 席: 山岡 淳(名誉会員)

監 事: 高橋良博

事務局: 浮谷秀一(事務局長), 佐藤恵美(幹事)

I 理事長より(森下理事長)

II 第77回大会委員長挨拶(田中大会委員長)

III 報告事項

1. 事業報告

(1) 会員の異動および会費納入状況

- 2010年9月7日現在, 1281名が会員である。
2010年度の会費の納入率は62%である。

(2) 各種委員会報告

1) 機関誌編集委員会(川本委員長)

- 現在、『応用心理学研究』に入稿済みの原稿は原著2本, 短報2本で第36巻第1号に掲載される予定である。査読済み原稿は原著2本, 短報2本で第36巻第2号に掲載される予定である。

- 2010年9月現在, 原著4本, 資料2本, 短報4本が投稿されている。

- 所正文先生の所属機関(国士舘大学)に代わり, 深澤先生の所属機関(東京富士大学)に投稿先が変更となった。

2) 企画委員会(代理: 浮谷事務局長)

- 昨年の公開シンポジウム(駒澤大学), 過去の本学会研修会(A・B)についての報告がなされた(配布資料)。詳しくは明日の総会で報告する。

3) 広報委員会(藤森委員長)

- ニュースレターは昨年9月で終了し, その後, 『応用心理学のクロスロード』を発行することにした。第1号(創刊号)は6月に発行済み,

第2号を12月に発行する予定である。

- 『応用心理学のクロスロード』の執筆者は原則会員に依頼しているが, 執筆内容によっては会員以外の人をお願いすることがある。
- 4) 「応用心理士」認定審査委員会(玉井委員長)
- 2009年度の「応用心理士」への申請は19名であったが, 審査の結果19名のうち18名を合格とした。不合格であった1名は, 入会后2年未満のため審査基準を満たしていなかったことによる。
 - 2010年度前期では2名の申請があり, 審査後, 合格とした。
 - 現在300名弱の資格取得者があるため, 今後, 研修会などをとおして応用心理士の質の保証を考えていく必要がある。
- 5) 国際交流委員会(内藤委員長)
- 国際応用心理学会議(メルボルン)の大会で本学会主催シンポジウムを開催し盛況であった。来年3月をめどにシンポジウムの概要をまとめ, 英文特集号に掲載する予定である。
 - 国際応用心理学会で発表した論文は英文特集号に掲載することができる。投稿希望者は10月末までに申込みを行い, 投稿原稿は2011年2月28日を締切りとする。投稿規程および申込書はホームページに掲載する。英文特集号の応募先は, 機関誌編集委員会の深澤先生宛にお願いする。
 - 非会員が投稿(連名投稿を含む)する場合は, 2010年10月31日の投稿締切り日までに正会員になることが必要である。
 - 英文のネイティブチェックを必要とするが, 業者については学会が紹介する。
 - 「別刷」希望者はすべて私費になることが決まった。
- 6) 若手研究者支援委員会(代理: 浮谷事務局長)
- 明日からの第77回大会の若手支援の準備はできている。詳しいことは明日の総会で発表する。
- (3) 学会活性化プロジェクトチーム
(代理: 浮谷事務局長)
- 本年6月に答申書が提出され, 8月に取りまとめた。他学会との連携, 若手研究者の支援, 国際交流委員会のあり方など多方面からの検討を

行った。資料は明日の総会までに理事に用意する。

(4) 学会賞選考について (藤田委員長)

- 本学会「学会賞」は2年に一度、2部門(論文、実践活動)で選考を行う。今年は2回目である。
- 論文部門は、『応用心理学研究』第33巻第2号～第35巻第2号までの計6冊が対象であり、36名の理事に審査をお願いした。その結果、第33巻第2号の櫻井美由紀・岩崎祥一論文「視覚・聴覚の二重課題における注意の偏りについての研究」に決定した。
- 実践活動部門は、「該当者なし」となった。

(5) 大会発表賞について (藤田副理事長)

- 学会活性化プロジェクトチームの提案にもとづき、第77回大会(京都大学)から「大会発表賞」を新設することが常任理事会で決定された。第1次審査は会員が行い、常任理事会で最終的に決定する。なお、委員会は「学会賞選考委員会」が兼務する。
- 第1次審査は、大会に参加した会員から1日目と2日目にそれぞれに3つ以内の論文を推薦してもらい、投票用紙は、大会受付で配布する。受賞者は、ホームページと『応用心理学のクロスロード』誌上で公表し、本人に通知する。副賞は次年度大会の懇親会招待(第1著者のみ)で、懇親会の会場で理事長が表彰(表彰は著者全員)する。
- 副賞の懇親会招待費用は学会が負担する。

(6) 2009年度第76回大会報告

(川本大会委員長)

- 決算報告書に基づいて報告された(配布資料)。

(7) 日本心理学諸学会連合について

1) 理事会について (谷口担当常任理事)

- 2010年6月20日に日心連の会議があり、三団体による国資格問題の基本方針が決まったことに伴い、資格の基本コンセプト、要望意見、カリキュラム案が審議、可決された(配布資料)。
- 国資格問題に関して医療関係団体から一資格一法案が提案されたが、これにはカリキュラムの一本化が必要のため今後協議する必要がある。
- 資格名に臨床心理士のような「臨床」をつける

ことは難しいことが日心連内で確認されている。

[国資格問題に関して]

医療関係団体から一資格一法案が提案された。これにはカリキュラムの一本化が必要であり作成する必要がある。そこで日心連より「大学院カリキュラム案C(ver.2)」が提案されたのを受け、本学会でも意見・質問を求められている。8月の常任理事会において、日本応用心理学会は臨床に特化している学会ではないので、「大学院カリキュラム案B(ver.2)」よりも、折衷案である「大学院カリキュラム案C(ver.2)」を支持することが了承された。ただし、国資格になることを目的とする場合、B案であっても柔軟に対応していく必要もあるのではないかという意見が出された。

- 本理事会において、8月の常任理事会(案)が承認されたので、次回10月の日心連理事会で本学会としての意見・質問を報告する予定である。

2) 心理学検定について (藤田心理学検定委員)

- 第3回心理学検定は8月22日(日)に実施され、申込者2,260名、受検者は2,031名(受検率89.8%)であった。

IV 審議事項

1. 2009年度決算書に関する件(浮谷事務局長)

- 2009年度の決算書は別紙のとおりである。
- 名簿作成積立金の予算は50万円であるが、今回の見積りは約117万円となり、大幅に予算を超える予定である。前回の名簿作成では約115万円(送料込)がかかっているため、今回の決算となった。以上の説明を踏まえ、2009年度決算書は理事会にて承認された。

- 2009年度決算書にもとづいて報告された。その後監査による会計監査の報告があった。

- 名簿作成のための取崩金を予算では50万円としたが、見積りが約117万円となったために増額した。また、予算に比べて減った繰越金を補うために、基金の取崩金を増額した。

- このような経緯を経て、2009年度決算書は理事会にて承認された。

2. 2010年度予算案に関する件(浮谷事務局長)

- 2010年度予算案にもとづいて報告された。

- ニュースレターにかえて新広報誌『クロスロード』を発行するため、90万円(45万円×2号)に支出が増える。
 - 2011年度以降予算が立てられなくなる可能性がある。今後支出を削減する、会員数を増やす、会費を増額するなどして収入を増やす方法を検討することが確認された。
 - 理事長より、明後日12日の常任理事会において、「日本応用心理学会の更なる発展を考える会」を立ち上げる予定であると発言があった。
 - このような2010年度予算案に対する提案を経て、理事会で予算案は承認された。
3. 学会賞選考に関する件(藤田委員長)
- 理事会にて承認された。
4. 名誉会員推戴に関する件(森下理事長)
- 理事の荻野七重先生を名誉会員として推挙したが、ご本人がご辞退された。
5. 「応用心理士」に関する件(玉井委員長)
- 応用心理士の認定審査規則第4条第1項について、「心理学専攻」となっているが「心理学専攻またはこれに準ずる分野あるいは修了した者」との改定案が提出された。今後の応用心理士の拡大を考え、明日、総会で改定案を提出する予定である。
6. 2012年度第79回大会委員長(大会当番機関)に関する件(森下理事長)
- 大坊常任理事を通じて、北海道の北星学園大学(濱保久先生)と交渉して内諾をいただいている旨が提案され承認された。
- V 2011年度第78回大会委員長挨拶
(内藤大会委員長)
- 2011年9月10日(土)、11日(日)に信州大学(松本)で開催する予定であり、意欲的に準備を進めている旨の挨拶があった。
 - * 理事会を閉会する前に、学会賞は報告事項との指摘があり、審議事項から削除することが決定された。また、名誉会員の推戴についても、結果としていなかったため、この審議事項も削除することが決定され、総会では取り上げないことになった。

2010年度総会議事録

日 時: 2010年9月11日(土)午後12時30分～

13時30分

場 所: 京都大学 B会場(1号館)

進行: 浮谷秀一事務局長

- I 理事長挨拶(森下理事長)
- II 第77回大会委員長挨拶(田中大会委員長)
- III 議長選出
- 田中大会委員長が選出された。
- IV 報告事項
1. 事業報告
- (1) 会員の異動および会費納入状況
- 2010年9月7日現在、1281名が会員である。2010年度の会費の納入率は62%である。
- (2) 各種委員会報告
- 1) 機関誌編集委員会(川本委員長)
- 現在の『応用心理学研究』入稿済み原稿は原著2本、短報2本で第36巻第1号に掲載される予定である。査読済み原稿は原著2本、短報2本で第36巻第2号に掲載される予定である。
 - 所正文先生の所属先(国士館大学)に代わり、深澤先生の所属先(東京富士大学)に投稿先が変更となった。
- 2) 企画委員会(田之内委員長)
- 昨年度の公開シンポジウム(駒澤大学)、および研修会A, Bについての報告がなされた。
 - 本年度の公開シンポジウムの日程は2010年11月13日(土)13:00～15:30、場所は東京富士大学(メディアホール)に決定した。タイトルは「なぜ若者は恋をしないのか—応用心理学からみた恋愛—」となった。
 - 今年からハガキによる通知はなくなり、ホームページにて行うことになった。
- 3) 広報委員会(藤森委員長)
- ニュースレターは昨年9月で終了し、その後、『応用心理学のクロスロード』を発行している。第1号(創刊号)は6月に発行済み、第2号を12月に発行する予定である。
 - 『応用心理学のクロスロード』の執筆者は原則会員に依頼しているが、執筆内容によっては会員以外の人をお願いすることがある。
- 4) 「応用心理士」認定審査委員会(玉井委員長)
- 2009年度の「応用心理士」への申請は19名であったが、審査の結果19名のうち18名を合格とした。不合格であった1名は、入会后2年

未満のため審査基準を満たしていなかったことによる。

5) 国際交流委員会 (内藤委員長)

- 国際応用心理学会議 (メルボルン) でシンポジウムを開催し盛況であった。来年3月をめどにシンポジウムの概要をまとめ、英文特集号に掲載する予定である。
- 国際応用心理学会で発表した論文は英文特集号に掲載することができる。投稿希望者は10月末までに申し込みを行い、投稿原稿は2011年2月28日を締切りとする。投稿規程および申込書はホームページに掲載する。英文特集号の応募先は、機関誌編集委員会の深澤先生宛にお願いする。
- 非会員が投稿 (連名投稿を含む) する場合は、2010年10月31日の投稿締切り日までに正会員になることが必要である。
- 英文のネイティブチェックを必要とするが、業者については学会が紹介する。
- 「抜刷」希望者はすべて私費になることが決まった。

6) 若手研究者支援委員会 (蓮花委員長)

- 第76回大会 (九州大学) で、会員発表費補助は34名 (各3千円)、ワークショップ1件 (各2万円)、非会員2名 (各2千円) に援助を行った。
- 本大会でも若手支援を行う。紹介者名を受付で話してもらおうと手続きをスムーズに行うことができる。

7) 学会活性化プロジェクトチーム

(蓮花チーム長)

- 他学会との連携、若手支援のあり方、国際交流のあり方など多方面からの検討を行った。

(3) 学会賞選考について (藤田委員長)

- 本学会「学会賞」は2年に一度、2部門 (論文、実践活動) で選考を行う。今年は2回目である。
- 論文部門は、『応用心理学研究』第33巻第2号～第35巻第2号までの計6冊が対象であり、36名の理事に審査をお願いした。その結果、第33巻第2号の櫻井美由紀・岩崎祥一論文「視覚・聴覚の二重課題における注意の偏りについての研究」に決定した。

- 実践活動部門は、「該当者なし」となった。

(4) 大会発表賞について (藤田副理事長)

- 学会活性化プロジェクトチームの提案にもとづき、第77回大会 (京都大学) から「大会発表賞」を新設することが常任理事会で決定された。第1次審査は会員が行い、常任理事会で最終的に決定する。
- 第1次審査は、大会に参加した会員から1日目と2日目にそれぞれに3つ以内の論文を推薦してもらう。投票用紙は、大会受付で配布する。受賞者は、ホームページと『応用心理学のクロスロード』誌上で公表し、本人に通知する。副賞は次年度大会の懇親会招待 (第1著者のみ) で、懇親会の会場で理事長が表彰 (表彰は著者全員) する。

(5) 2009年度第76回大会報告

(川本大会委員長)

- 決算報告書は別紙のとおりである (配布資料)。

(6) 日本心理学諸学会連合について

1) 理事会について (谷口担当常任理事)

- 2010年6月20日に日心連の会議があり、三団体による国資格問題の基本方針が決まったことに伴い、資格の基本コンセプト、要望意見、カリキュラム案が審議、可決された (配布資料)。
- 国資格問題に関して医療関係団体から一資格一法案が提案されたが、これにはカリキュラムの一本化が必要なため今後協議する必要がある。
- 資格名に臨床心理士のような「臨床」をつけることは難しいことが日心連内で確認されている。

V 審議事項

1. 2009年度決算書に関する件 (浮谷事務局長)

- 2009年度の決算書は別紙のとおりである。
- 名簿作成積立金の予算は50万円であるが、今回の見積りは約117万円となり、大幅に予算を超える予定である。前回の名簿作成では約115万円 (送料込) がかかっているため、今回の決算となった。以上の説明を踏まえ、2009年度決算書は総会にて承認された。

2. 2010年度予算案に関する件 (浮谷事務局長)

- 2010年度予算案は別紙のとおりである。
- 広報費には新広報誌『クロスロード』が入って

いる。

- 2010 年度予算の時点で、会費収入約 580 万円に対して支出約 1000 万円である。2009 年度決算書の時点で繰越金が 0 円になる。このため、2011 年度以降予算が立たなくなる可能性があることが指摘された。
 - 会員より 2010 年度予算に関して、収入の約 15%前後を占める国際交流費、および英文特集号に対する予算の組替えの要望が提案された。
 - この提案に対し、理事長より 12 日の常任理事会において、「日本応用心理学会の更なる発展を考える会」を立ち上げ、今後、支出の削減、会員数増加などの方策を検討し、予算を立て直す方法についての考えが述べられた。
 - 2010 年度予算案は総会で承認された。
3. 「応用心理士」に関する件 (玉井委員長)
- 応用心理士の認定審査規則の改定に関する提案があった。第 4 条第 1 項について、「心理学専攻」となっているが「心理学専攻、またはこれに準ずる分野あるいは修了した者」との改定案が提出され、承認された。
4. 2012 年度第 79 回大会に関する件
- 大坊常任理事を通じて、北海道の北星学園大学 (濱保久先生) に内諾をいただいている。総会での承認後、理事長から正式に依頼する予定である。この経緯を経て、第 79 回大会の開催が承認された。

VI 議長解任

VII 学会賞授賞式

- 理事長より、「学会賞」(論文部門)の『応用心理学研究』第 33 巻第 2 号の櫻井美由紀・岩崎祥一論文「視覚・聴覚の二重課題における注意の偏りについての研究」が表彰された。

VIII 2011 年度第 78 回大会委員長挨拶

(内藤大会委員長)

- 2011 年 9 月 10 日 (土)、11 日 (日) に信州大学 (松本) で開催する予定であり、意欲的に準備を進めている旨の挨拶があった。

2010 年度 第 4 回常任理事会議事録

日 時: 2010 年 9 月 12 日 (日) 午後 12 時 15 分～
13 時 15 分

場 所: 京都大学 C 会館 4 階機構セミナー室 (総

合館北棟)

出席者: 森下高治理事長、藤田主一副理事長

浮谷秀一、井上孝代、川本利恵子、田中真介、田之内厚三、谷口泰富、向井希宏、内藤哲雄、藤森立男、玉井 寛、大坊郁夫、蓮花一己 (以上 14 名)

事務局: 浮谷秀一 (事務局長) 佐藤恵美 (幹事)

I 報告事項

1. 理事長より (森下理事長)

2. 各委員会報告

(1) 機関誌編集委員会 (川本委員長)

- 若手研究者獲得のために特集号を出すことを機関誌編集副委員長と検討中である。

(2) 企画委員会 (田之内委員長)

- 今大会の研修会の参加者は、研修会 A は 30 名、研修会 B は 20 名であった。
- 次大会の研修会について、1 つは名誉会員と交渉中であるが、もう 1 つは検討中である。

(3) 広報委員会 (藤森委員長)

- 『応用心理学のクロスロード』第 2 号を 12 月に発行する予定である。

(4) 「応用心理士」認定審査委員会 (玉井委員長)

- 2010 年度前期では 2 名の申請があり、審査後合格とし、入金が確認された。

(5) 国際交流委員会 (内藤委員長)

- 国際応用心理学会 (メルボルン) のシンポジウム概要を英文特集号に掲載する予定である。
- 10 月末に英文特集号への投稿の応募締切りとし、今後ホームページで応募要項などを掲載する。

(6) 若手研究者支援委員会 (蓮花委員長)

- 第 77 回大会の若手支援は、昨年と比べ今年は非会員が 10 数名と多かった。本日 14 時まで受け付けるので、次回の常任理事会で詳しい人数を報告する。

(7) 学会賞選考委員会 (藤田委員長)

- 櫻井美由紀・岩崎祥一論文「視覚・聴覚の二重課題における注意の偏りについての研究 (第 33 巻第 2 号)」の授賞式が昨日の総会で行われた。

- 次回の学会賞選考は 2 年後である。

3. 2010 年第 77 回大会について

(田中大会委員長)

- シンポジウム 3 件, 自主企画ワークショップ 8 件, 体験型企画など多彩であり盛況である。懇親会の参加者は 192 名であった。

4. 2011 年第 78 回大会について

(内藤大会委員長)

- 2011 年 9 月 10 (土), 11 日 (日) に信州大学 (松本) で開催する予定である。

5. 日本諸学会連合について

(1) 理事会について (谷口担当常任理事)

- 前回の常任理事会で, 本学会としては「大学院カリキュラム案 C (ver. 2)」を支持することに決定したことを確認した。

(2) 心理学検定について (藤田委員)

- 特になし

II 審議事項

1. 理事長諮問機関「日本応用心理学会の更なる発展を考える会」に関する件 (森下理事長)

- 財政面に関する改善などのいくつかの問題点を検討するために, 「日本応用心理学会の更なる発展を考える会」を立ち上げ, 来年 3 月に中間答申, 再来年 3 月に最終報告をする予定である。なお, 委員長には藤田副理事長が就任する。
- 藤田副理事長に人選 (常任理事の中から 4~5 名程度に依頼) をお願いし, 11 月 13 日 (土) の常任理事会に提案してもらう予定である。
- 予算案を見ると財政的に厳しいので, たとえば会員名簿の PDF 化, 国際交流費の見直し, 予算の見直し, 年会費の検討などの改善策を早急に打ち出す必要があることが理事長より具申された。

- 今年度の予算の組替えも視野に入れる提案がなされた。

- 国際応用心理学会において, 3 カ国が入ったシンポジウムを優先させているので, 日本人だけのシンポジウムの形は今後なくなっていく可能性がある。このため, 国際交流委員会費の補助に関して, 若手の国際応用心理学会参加の助成などの面からも検討する必要があるとの意見が出された。

2. 〈国家資格についての三団体共同見解 (案)〉アンケートに関する件 (浮谷事務局長)

- 追加のアンケートが送られてきたので, そのアンケートにどう回答するかを検討した。しかし

ながら, 本会議中に回答をまとめることは難しいので, 各常任理事の意見を今週末までにメールで浮谷事務局長まで送信してもらうことにした。その結果を受けて, 仮に本学会としての意見がなくても「なし」と返答することとし, 本件は最終的に理事長に一任された。

3. 新入会員審査に関する件 (浮谷事務局長)

- 1 名の入会希望者があり, 審議の結果入会が承認された。

(正会員) 上田淳子

4. その他

- 藤田心理学検定担当委員の任期が今年度末で終了するため, 来年 4 月から大坊常任理事を本学会推薦の心理学検定担当委員に推薦することが承認された。

* 次回以降の常任理事会日程について

- 2010 年 11 月 13 日 (土) に東京富士大学で開催する。その後に公開シンポジウムが開催される予定である。

2010 年度 第 5 回常任理事会議事録

日 時: 2010 年 11 月 13 日 (土) 11 時 30 分~13 時 00 分

場 所: 東京富士大学本館 1 階第 2 会議室

出席者: 森下高治理事長, 藤田主一副理事長

浮谷秀一, 川本利恵子, 大坊郁夫, 谷口泰富, 田之内厚三, 内藤哲雄, 藤森立男, 向井希宏, 蓮花一己 (以上常任理事 11 名)

欠席者: 井上孝代, 田中真介, 玉井 寛

事務局: 浮谷秀一 (事務局長), 佐藤恵美 (幹事)

I 報告事項

1. 理事長挨拶 (森下理事長)

2. 各種委員会報告

(1) 機関誌編集委員会 (川本委員長)

- 現在, 『応用心理学研究』第 36 巻第 1 号 (原著 2 本, 短報 2 本) の最終印刷へ向けた作業を行っている。
- 現在, 第 36 巻第 2 号以降の掲載可能論文は原著 5 本, 短報 2 本である。
- 査読中の論文は, 原著 4 本, 資料 4 本, 短報 8 本である。

(2) 企画委員会 (田之内委員長)

- 今年度の公開シンポジウム「なぜ若者は恋をし

ないのか」は本日 13 時から、東京富士大学メディアホールで開催される予定である。

(3) 広報委員会 (藤森委員長)

- 『応用心理学のクロスロード』第 2 号を 12 月に発行する予定であり、最終校正中である。
- 広告掲載に関しては、ナカニシヤ出版をはじめ 6 社の掲載が決定している。今後、10 社程度の開拓を目指している。
- 第 3 号の構成原案を構想中である。この中に第 78 回大会の案内をいれる予定である。また、第 3 号の原稿締切りは、理事が 3 月 24 日、一般会員が 2 月の予定である。

(4) 「応用心理士」認定審査委員会

(代理: 浮谷委員)

- 2010 年度後期では現在 2 名の申請を受付けている。

(5) 国際交流委員会 (内藤委員長)

- 国際応用心理学会 (メルボルン) の英文特集号の締切り (10 月 31 日) をホームページに掲載したが、掲載した時期が遅かったので 11 月末まで締切りを延ばした。
- 10 月 31 日までの発表申込み件数は 25 件であり、11 月末まで締切りが延びているのでこれから増える予定である。
- 審査等に関しては、委員長が次年度大会委員長であることから、川本先生に副委員長になっていただき、審査等をお願いする予定である。
- 著書全員が会員であること (連名者も会員であること) が、常任理事会で確認された。

(6) 若手研究者支援委員会 (代理: 浮谷事務局長)

- 第 77 回大会の若手支援は、ほぼ去年と同様の金額と人数であった。

(7) 学会賞選考について (藤田委員長)

- 第 77 回大会学会において、第 33 巻第 2 号の櫻井美由紀・岩崎祥一論文の「視覚・聴覚の二重課題における注意の偏りについての研究」の授賞式を行った。これは、『応用心理学のクロスロード』第 2 号に掲載、ホームページにも公開する予定である。

3. 2011 年度第 78 回大会について

(内藤大会委員長)

- 2011 年 9 月 10, 11 日 (9 月 9 日理事会) に第 78 回大会を開催する予定である。現在、懇親会の

会場、人員、宿泊施設の手配などを進めている。

4. 日本心理学諸学会連合について

(1) 理事会について (谷口担当常任理事)

- 12 月 23 日に日心連の理事会が予定されているので、次回の常任理事会でその報告をする。

(2) 心理学検定について

(藤田委員, 補足: 大坊常任理事)

- (1) 今年の心理学検定受験申込者は 2,260 名であり、昨年に比べて増えていること、『心理学検定公式問題集』を年度版にすることなどが報告された。
- (1) 心理学検定の合格者について、今後は「応用心理士」の申請要件のひとつとすることも考慮すべきではないかとの提案があった。

III 審議事項

1. 理事長諮問機関「日本応用心理学会の更なる発展を考える会」に関する件 (藤田副理事長)

- 前回の常任理事会で設立され、委員長に指名された藤田副理事長から、副委員長に浮谷事務局長、委員に大坊常任理事、谷口常任理事、玉井常任理事、内藤常任理事の 5 名の提案があり承認された。今後は委員長を含めて 6 名で運営する。

- 「日本応用心理学会の更なる発展を考える会」からの検討事項の提案

1) 財政の見直しについて

- 各委員会経費の見直し
- 常任理事の人数の見直し
- 国際応用心理学会経費の見直し
- 若手研究者支援も含め各委員会への予算の見直し
- 年会費の見直し

2) 会員名簿の費用について

- 会員名簿の費用が 100 万円に近いので、今後セキュリティを強化したうえでデータ化していくことが提案された。他学会で採用されている方法である、会員名簿をデータ化し、ホームページ上で検索させるという形も提案された。

3) 「応用心理士」の確保について

- 「応用心理士」資格の幅が広いので、「応用心理士」の専門分野を明確にしていくことを考えている。また、「応用心理士」取得者に向けての研修会を有料化していくことも提案された。

4) 『応用心理学のクロスロード』について

- 現在、『応用心理学のクロスロード』が、福村出版から約90万円で発行している。紙媒体で年2号という発行形式は変えずに、現在の48ページ数を見直し、削減していくことが提案された。しかしながら発行したばかりなので、3年間は継続する予定である。

5) その他

- 来年度の予算編成に向けて、余剰金が150万円ほどであり、財政が厳しいことを確認した。
- 若手研究者支援の内容として、非会員への援助や若手支援の形態を今後どのようにしていくかについて議論された。

2. 「大会発表賞」に関する件（藤田副理事長）

- 第77回大会（京都大学）から、発表論文（口頭発表、ポスター発表）に対して「大会発表賞」を新設した。選考方法は、大会に参加した会員による投票結果に基づき、常任理事会での最終決定とした。資料により投票結果が報告され、「大会発表賞」にふさわしい完成度の高い発表論文として、9月11日の3件、12日の1件を授賞対象にすることを決定した。

3. 新入会員審査および会員異動に関する件

- 下記の入会希望者21名を審査し全員を承認した。

（正会員）石橋裕子，烏帽子田 彰，深堀友覚，萩原涼子，山下雅子，薊理津子，長谷川真里，大畑由佳，木戸盛年，多田昌裕，松本みゆき，土屋耕治，吉澤寛之，中島誠，吉田琢哉，原田知佳，早田武四郎，ローボトム恵，山口正二，青木健一，安藤孝敏

- 2010年11月10日現在の会員数は1284名である。

* 次回の常任理事会は3月12日（土）に中京大学にて開催する予定である。

会員異動

2010年度新入会（117名）

青木 いづみ

埼玉医科大学短期大学

青木 健一

東京電機大学大学院

赤沢 毅

学校法人 日本大学

薊 理津子

明治大学

麻生 典子

日本女子大学

阿倍 真美子

立正大学大学院心理学研究科

荒木 みさこ

桜美林大学

安藤 孝敏

横浜国立大学

飯島 有美子

関西国際大学人間科学部ビジネス行動学科

五十嵐 博

群馬県立県民健康科学大学

石橋 裕子

帝京科学大学

井田 政則

立正大学 心理学部

伊藤 彩

日本体育大学スポーツ・トレーニングセンター

伊藤 宏

静岡大学 教育学部

岩立 志津夫

日本女子大学人間社会学部心理学科

岩本 喜道

アップハート株式会社

上田 淳子

日本大学 芸術学部

烏帽子田 彰

広島大学大学院

大久保 健一

一般社団法人 日本予防トレーニング協会

大坂 紘子

東北大学大学院文学研究科

太田 顕子

兵庫教育大学連合大学院

大音 友希恵

京都教育大学 教育学研究科

大畑 由佳

岡山大学大学院社会文化科学研究科

沖中 武

関西学院大学大学院文学研究科

尾崎 美恵子

埼玉医科大学短期大学看護学科

緒田 茂裕

一般社団法人 日本予防トレーニング協会

片受 靖

立正大学心理学部臨床心理学科

金岡 麻希

北九州大学大学院医学研究院保健学部門

兼藤 正一郎

龍谷大学大学院教育学専攻臨床心理学領域

上瀬 由美子

立正大学心理学部

川端 莊康

尚絢学院大学

岸田 香織

毛呂病院看護専門学校第一学科

木戸 盛年

関西学院大学大学院

清野 圭一

有限会社 ケアステーション マイライフ

楠瀬 友季

岡山大学大学院

倉岡 理保

女子栄養大学

後藤 英梨

女子栄養大学

小橋 真理子

立正大学心理学研究科応用心理学専攻

小森 万由美

岡山大学

今野 順

東京国際大学大学院社会学研究科

齊藤 崇

日本体育大学女子短期大学部

齊藤 真美

関西国際大学

佐藤 敬子

毛呂病院看護専門学校第二学科

佐藤 隆

株式会社 総合心理教育研究所

佐藤 典子

女子栄養大学

椎葉 利江

株式会社 産業心理教育研究所

篠原 成美

女子栄養大学

芝田 郁子

福島学院大学

嵐津 夕希子

龍谷大学大学院文学研究科教育学専攻

島村 知秀

東京国際大学大学院

杉本 真理

大阪府立母子健康総合医療センター

栖村 はるみ

名古屋市児童福祉センター 中央教育センター

陶山 智

亜細亜大学

諏訪部 和子

静岡県立こども病院

早田 武四郎

元 和歌山大学教育学部教授

田井 和美

大阪府障がい者自立相談支援センター

高橋 尚也

立正大学心理学部

竹内 謙彰

立命館大学産業社会学部

武村 美幸

愛知教育大学教育学研究科学校教育臨床専攻

多田 昌裕

株式会社国際電気通信基礎技術研究所

立山 章雄

有限会社 ウィン 21

田中 共子

岡山大学社会文化科学研究科

千島 直樹

一般社団法人 日本予防トレーニング協会

趙 文晴

東京国際大学大学院社会学研究科

津田 友理香

明治大学大学院

- 土屋 耕治
名古屋大学大学院教育発達科学研究科
- 坪倉 幾久子
株式会社ソシオ・ダイナミックス
- 津曲 陽子
九州大学大学院人間環境学府
- 豊田 賀子
明治学院大学 心理学部
- 長澤 里絵
立正大学大学院
- 中島 誠
三重大学高等教育創造開発センター
- 中妻 拓也
関西国際大学大学院
- 中村 知靖
九州大学大学院人間環境学研究院
- 那須 美奈子
新潟県厚生連中央看護専門学校専任教員
- 成田 彩乃
明治学院大学大学院
- 西村 眸
大阪樟蔭女子大学大学院
- 西村 由美子
帝塚山大学大学院
- 萩原 涼子
精神保健福祉士 社会福祉士
- 長谷川 真里
横浜市立大学
- 浜崎 英子
同志社大学心理学部余語真夫研究室 フラワー・サイコロジー研究所
- 原田 知佳
日本学術振興会・名古屋大学
- 原田 知子
倉敷繊維加工株式会社
- 引地 博之
東北大学大学院
- 兵藤 好美
岡山大学大学院保健学研究科
- 深野 あずさ
株式会社 総合心理教育研究所
- 深堀 友覚
駒澤大学文学部心理学科
- 福島 義通
東京都在住・離職中
- 福田 紗希
帝塚山大学大学院
- 藤浦 芳江
株式会社ベネッセコーポレーション
- 藤田 綾子
甲子園大学心理学科
- 細川 京子
川崎医療福祉大学
- 堀 恭子
横浜国立大学大学院環境情報学府
- 堀 直人
駒澤大学
- 堀 良子
新潟県立看護大学
- 堀井 康平
さいころ興房
- 松浦 美晴
山陽学園大学総合人間学部
- 松尾 怜奈
龍谷大学大学院文学研究科
- 松原 健太
群馬大学大学院
- 松本 みゆき
名古屋大学評価企画室
- 峰岸 幸子
毛呂病院看護専門学校
- 村瀬 裕恵
帝塚山大学大学院
- 森下 雄輔
帝塚山大学
- 八木 善彦
立正大学心理学部
- 安友 かおり
岡山大学病院
- 安政 元子
三田市まちづくり協働センター
- 柳澤 希緒子
帝塚山大学大学院
- 山岡 重行
聖徳大学人文学部心理学科

山口 正二

東京電機大学

横見 守明

厚木あすなろの会・あすなろ第一（就労継続支援
B型）

吉澤 寛之

岐阜聖徳学園大学

義田 俊之

九州大学大学院人間環境学研究院

吉田 琢哉

東海学院大学

吉村 友希

帝塚山大学 大学院

ロボトム 恵

前野保育園

渡邊 愛祈

明治学院大学大学院

渡邊 文春

特定非営利活動法人 福祉親愛会

綿村 英一郎

東京大学大学院人文社会系研究科

薛常慧, 庄司俊幸, 生水一美, 新藤美香, 菅野理樹夫, 菅野亮, 杉浦愛子, 鈴木智裕, 鈴木祐子, 戴伸峰, 高城寛志, 高橋晃, 高見理恵子, 武市尚大, 竹岡俊一, 武田真弓, 竹田せき子, 竹中桂子, 立田幸代子, 田中翔子, 田中美貴, 田辺勝, 田山淳, 茅原正, 月野木竜也, 津久井貴子, 土谷望, 椿堂由紀, 手代木綾, 出水真寿美, 堂代裕子, 殿村由希, 富重健一, 富田秋枝, 豊田有紀, 鳥飼雪子, 鳥山絵美, 長尾史英, 中川高, 中里茂, 中澤さやか, 中島彩花, 中嶋正実, 長田淳子, 長塚和彌, 中村二三夫, 南篠充寿, 西村和浩, 仁平義明, 榆木佳子, 野村昌史, 蓮見知恵子, 波多野敦, 服部隆志, 早川未紗, 林洋一郎, 平林佐代子, 廣瀬まゆみ, 広田恵理華, 深田高一, 藤生英行, 布施晶子, 淵上恭江, 古川千晶, 古澤慶子, 細田信一, 前田明日香, 増田實, 松井真樹, 松浦光和, 松岡和生, 松坂まり子, 松村省吾, 松山美保子, マルコンオットー, 丸山昌一, 三井公一郎, 村瀬旻, 孟琳, 森慶輔, 森昇子, 森光彩, 森本朋子, 八木昭宏, 安川雅史, 山内和枝, 山川明子, 山崎章恵, 山崎麻里, 山添美紀, 山本恵一, 山本洋祐, 横井幸久, 吉田恒彦, 吉田美穂, 吉田統子, 米順子, 劉莉, 若林明雄, 若山英央, 渡邊亜紀子, 渡部桂子

2010年度退会者名簿一覧（161名）

青木玲子, 赤塚隆, 安達喜美子, 雨宮一洋, 安藤房子, 飯田真理子, 飯野伸子, 池山和子, 石原都久, 市川千文, 市村秀之, 岩倉希, 岩本彩子, 梅山佐和, 閻喜, 大木辰史, 大島千佳, 大武陽子, 大庭さよ, 大森誠, 岡村千鶴, 小川隆章, 小川由希子, 小川幸宣, 奥野弓子, 小野寺理江, 小山恭司, 開沼泰隆, 鑑さやか, 片岡健二, 河野望, 河野雄二, 川俣幸一, 久東光代, 熊谷陽子, 熊倉朋子, 雲井千香子, 小嶋新太, 小谷正登, 後藤英梨, 小林桂子, 小林結美, 小村晶子, 小森愛子, 佐久間直也, 近藤千尋, 齊藤早香枝, 佐伯勝幸, 佐伯和香子, 佐々木孝, 佐々木智城, 佐藤典子, 佐藤信茂, 佐藤久美子, 地頭沙織, 篠原成美, 柴田良一, 下方友子, 社会環境研究所,

逝去（4名）

稲越孝雄, 岸本英男, 堀啓造, 村瀬千春

住所不明（31名）

伊吹山太郎, 小島ひとみ, 加藤愛子, 加藤基子, 河原紀子, 木村基宏, 清宮栄一, 倉岡理保, 桑原ひとみ, 小西奈美, 櫻井久美, 佐藤拓, 佐藤祐基, 篠崎由紀子, 柴田美貴, 清水美帆, 鈴木達也, 鈴木ゆみ, 高橋美奈, 田中健太, 中淑子, 長崎真梨恵, 永澤幸七, 中田栄, 姫野深雪, 藤村融, 法理樹里, 満石寿, 村山綾, 山崎こずえ, 山本美代子

日本応用心理学会 2009年度決算書

(2009年4月1日～2010年3月31日)

| 収 入 | | | 支 出 | | |
|--------------------------|-----------|-----------|-------------------|-----------|-----------|
| 項 目 | 決算額 | 予算額 | 項 目 | 決算額 | 予算額 |
| 会費 | 5,553,000 | 5,844,000 | 第76回大会補助費 | 700,000 | 700,000 |
| 過年度分* (77名) | 456,000 | 528,000 | 学会賞 | 0 | 0 |
| *学生会員2名を含む | | | 心理学諸学会連合会費 | 60,000 | 60,000 |
| 本年度分** (850名) | 5,097,000 | 5,316,000 | シンポジウム・講演費謝金 | 200,000 | 200,000 |
| **学生会員10名含む、3,000円不足1名含む | | | 研修会講師謝金 | 60,000 | 100,000 |
| 賛助会費(過年度分を含む) | 30,000 | 40,000 | 国際交流費 | 0 | 150,000 |
| 「応用心理士」関係 | 850,000 | 800,000 | 「応用心理士」関係経費 | 613,197 | 700,000 |
| 審査料 | 220,000 | 200,000 | 委員会活動費 | 782,074 | 1,350,000 |
| 認定料 | 630,000 | 600,000 | 機関誌編集委員会 | 164,863 | 500,000 |
| | | | 企画委員会 | 287,951 | 300,000 |
| | | | 広報委員会 | 199,983 | 100,000 |
| | | | 国際交流委員会 | 40,560 | 100,000 |
| 機関誌売り上げ | 302,500 | 200,000 | 若手研究者支援委員会 | 0 | 50,000 |
| 雑収入(著作権使用料等) | 99,207 | 100,000 | 学会賞選考委員会 | 0 | 0 |
| | | | 倫理委員会 | 0 | 100,000 |
| 前年度繰越金 | 586,617 | 2,000,000 | 学会活性化プロジェクトチーム活動費 | 88,717 | 200,000 |
| 名簿作成取崩 | 1,000,000 | 500,000 | 印刷費 | 2,518,372 | 2,800,000 |
| | | | 機関誌 | 2,315,250 | 2,500,000 |
| 特別企画積立金取崩 | 1,500,000 | 500,000 | 広報関係 | 107,310 | 200,000 |
| | | | その他 | 95,812 | 100,000 |
| | | | 通信費 | 465,960 | 650,000 |
| | | | 機関誌郵送費 | 247,905 | 200,000 |
| | | | 広報関係郵送費 | 74,880 | 200,000 |
| | | | その他 | 143,175 | 250,000 |
| | | | 常任理事交通費 | 1,022,700 | 950,000 |
| | | | 事務局運営費 | 528,251 | 300,000 |
| | | | 事務局委託費 | 1,025,481 | 800,000 |
| | | | 名簿作成費 | 1,173,992 | 500,000 |
| | | | 名簿作成積立金 | 0 | 0 |
| | | | 特別企画積立金 | 0 | 0 |
| | | | 予備費 | 0 | 724,000 |
| | | | 次年度繰越金 | 771,297 | 0 |
| 合 計 | 9,921,324 | 9,984,000 | 合 計 | 9,921,324 | 9,984,000 |

《別途会計》

1. 名簿作成積立金

| | |
|-----------|------------|
| 2008年度繰越金 | 2,000,000 |
| 2009年度取崩金 | -1,000,000 |
| | 1,000,000 |

2. 特別企画積立金

| | |
|-----------|------------|
| 2008年度繰越金 | 4,500,000 |
| 2009年度取崩金 | -1,500,000 |
| | 3,000,000 |

3. 若手育成基金

| | |
|------------|-----------|
| 2008年度繰越金 | 1,894,093 |
| 第76回大会から寄付 | 87,413 |
| 2009年度支援金 | -126,000 |
| | 1,855,506 |

以上の通り相違ありません。

平成22年9月4日

平成22年9月4日

監事 高橋良博 ㊟

監事 手島茂樹 ㊟

日本応用心理学会 2010 年度予算案

(2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日)

| 収 入 | | | | 支 出 | | |
|-----------|------------|-------|-----------|-------------------|------------|-----------|
| 項 目 | 予算額 | | 前年度予算額 | 項 目 | 予算額 | 前年度予算額 |
| 会費 | 5,844,000 | | 5,844,000 | 第 77 回大会補助費 | 700,000 | 700,000 |
| 過年度分 | 528,000 | 88 名 | 528,000 | 学会費 | 100,000 | 0 |
| 本年度分 | 5,316,000 | 886 名 | 5,316,000 | 心理学諸学会連合会費 | 60,000 | 60,000 |
| | | | | シンポジウム・講演費謝金 | 200,000 | 200,000 |
| | | | | 研修会講師謝金 | 60,000 | 100,000 |
| 賛助会費 | 40,000 | | 30,000 | 国際交流費 | 1,000,000 | 150,000 |
| | | | | 英文特集号関係諸費 | 200,000 | |
| 「応用心理士」関係 | 400,000 | | 800,000 | 「応用心理士」関係経費 | 200,000 | 700,000 |
| 審査料 | 100,000 | | 200,000 | | | |
| 認定料 | 300,000 | | 600,000 | 委員会活動費 | 1,450,000 | 1,350,000 |
| その他 | 0 | | 0 | 機関誌編集委員会 | 500,000 | 500,000 |
| | | | | 企画委員会 | 300,000 | 300,000 |
| 機関誌売り上げ | 200,000 | | 200,000 | 広報委員会 | 150,000 | 100,000 |
| 雑収入 | 100,000 | | 100,000 | 国際交流委員会 | 100,000 | 100,000 |
| | | | | 若手研究者支援委員会 | 50,000 | 50,000 |
| 前年度繰越金 | 771,297 | | 2,000,000 | 学会賞選考委員会 | 100,000 | 0 |
| | | | | 倫理委員会 | 50,000 | 100,000 |
| 名簿作成取崩金 | — | | 500,000 | 学会活性化プロジェクトチーム活動費 | 200,000 | 200,000 |
| | | | | | | |
| 特別企画積立金取崩 | 3,000,000 | | 500,000 | 印刷費 | 3,500,000 | 2,800,000 |
| | | | | 機関誌 | 2,500,000 | 2,500,000 |
| | | | | 広報関係 | 900,000 | 200,000 |
| | | | | その他 | 100,000 | 100,000 |
| | | | | 通信費 | 550,000 | 650,000 |
| | | | | 機関誌郵送費 | 200,000 | 200,000 |
| | | | | 広報関係郵送費 | 200,000 | 200,000 |
| | | | | その他 | 150,000 | 250,000 |
| | | | | 常任理事交通費 | 950,000 | 950,000 |
| | | | | 事務局運営費 | 300,000 | 300,000 |
| | | | | 事務局委託費 | 800,000 | 800,000 |
| | | | | 名簿作成費 | — | 500,000 |
| | | | | 名簿作成積立金 | 100,000 | 0 |
| | | | | 特別企画積立金 | 0 | 0 |
| | | | | 予備費 | 185,297 | 724,000 |
| | | | | 次年度繰越金 | — | 0 |
| 小 計 | 10,355,297 | | 9,984,000 | 小 計 | 10,355,297 | 9,984,000 |

《別途会計》

1. 名簿作成積立金

2009 年度繰越金 1,000,000

2010 年度積立金 100,000

1,100,000

2. 特別企画積立金

2009 年度繰越金 3,000,000

2010 年度取崩金 -3,000,000

0

3. 若手育成基金

2009 年度繰越金 1,855,506

2010 年度支援金 -300,000

1,555,506

日本応用心理学会第76回大会決算書

| 収 入 | | | 支 出 | |
|--------------|----------------|-----------|-----------------|-----------|
| 摘 要 | | 金 額 | 摘 要 | 金 額 |
| 大会参加費 | | 1,291,500 | 学会事務委託関係 | 1,741,453 |
| (内訳) 正会員 | (予約 5,000×135) | 675,000 | (内訳) 業務委託費 | |
| 正会員 | (当日 6,000×41) | 246,000 | システム関連費 | |
| 院 生 | (予約 2,000×52) | 104,000 | 大会論文集印刷費 | |
| 院 生 | (当日 3,000×4) | 12,000 | 大会プログラム印刷費 | |
| 非会員 | (予約 6,000×22) | 132,000 | 会場費 | |
| 非会員 | (当日 7,000×16) | 112,000 | 講師謝礼 | 125,695 |
| 非会員(学生) | (予約 3,000×0) | 0 | 大会事務局事務員謝礼 | 588,600 |
| 非会員(学生) | (当日 3,500×3) | 10,500 | 学生協力謝礼 | 181,886 |
| 発表費 | | 893,000 | 理事会費 | 139,500 |
| (内訳) 正会員・名誉 | 5,000×113 | 565,000 | 懇親会費 | 600,525 |
| 院 生(会員) | 3,000×46 | 138,000 | 総会費(弁当代) | 60,000 |
| 非会員 | 10,000×19 | 190,000 | 昼食費 | 48,800 |
| 非会員学生 | 8,000×0 | 0 | 消耗品費 | 80,362 |
| 自主ワークショップ | | 18,000 | 準備委員会運営費 | 380,000 |
| (内訳) 正会員 | 5,000×3 | 15,000 | 実行委員反省会運営費 | 42,000 |
| 院 生 | 3,000×1 | 3,000 | 郵送料 | 12,293 |
| 論文集・プログラム代 | | 285,000 | 大会当日移動費 | 26,245 |
| (内訳) 予約 | 5,000×30 | 150,000 | 手数料(国際文献出版印刷) | 840 |
| 当 日 | 6,000×21 | 126,000 | コピー機代 | 100,400 |
| プログラム | 1,000×9 | 9,000 | 寄付 学会(若手研究者支援分) | 87,413 |
| 懇親会費 | | 555,000 | | |
| (内訳) 正会員(予約) | 7,000×38 | 266,000 | | |
| 正会員(当日) | 8,000×19 | 152,000 | | |
| 院 生(予約) | 3,000×26 | 78,000 | | |
| 院 生(当日) | 4,000×9 | 36,000 | | |
| 同伴者 | 5,000×3 | 15,000 | | |
| 非会員 | 8,000×1 | 8,000 | | |
| 研修会費 | | 25,500 | | |
| (内訳) 正会員(予約) | (500×38) | 19,000 | | |
| 正会員(当日) | (1,000×5) | 5,000 | | |
| 非会員(当日) | (1,500×1) | 1,500 | | |
| 広告費・展示費 | | 430,000 | | |
| 学会本部補助 | | 700,000 | | |
| 理事会本部補助 | | 100,000 | | |
| その他(利息) | | 12 | | |
| 収 入 合 計 | | 4,298,012 | 支 出 合 計 | 4,298,012 |

以上のとおり、間違いありません。

平成21年12月5日

大会委員長

川本利恵子 ㊞